

「コロナ・本人訴訟」決起集会

2020年8月5日
新大阪丸ビル新館 405

1. 開会：柳楽

本日11時、大阪地裁に提訴した。これからは、通称「コロナ・本人訴訟」と呼ぶ。

本日、サービックと団交も開催した。その団交についても報告を行う。

2. 主催者あいさつ：小林

どうもご苦労さまです。主催者を代表して、ひと言挨拶を申し上げます。先の地本大会であらためて執行委員長になりました小林です。よろしくお願いします。

地区分会の仲間みなさん、今日は午前の提訴そして午後からの団体交渉お疲れ様でした。そして本決起集会に東海労本部から、法対総括の畑野副委員長と山内総務部長に参加して頂きました。ありがとうございます。畑野副委員長には後ほど挨拶をお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。

さて、仲間みなさん！ 本日、萩原さんが大阪地裁に「損害賠償請求事件」を提訴しました。萩原さんは、止むに止まれない決意で、弁護士に代理人を依頼しない本人訴訟で闘いに決起しました。被告はJR東海の関連会社である関西新幹線サービック・社長の小寺、そして新大阪第一事業所長の竹腰、それから副所長の山崎です。

詳細は後ほど萩原さんから触れられると思いますので省略しますが、要するに、サービック、とりわけ第一事業所の、やりたい放題・デタラメな勤務の取扱いは認められない！ 有給休暇に課題の提出などおかしい！ 従わなかったら自宅待機をさせないのは、コロナに感染して“死ね”ということか！ 俺はそんな不法行為・労務管理を絶対に許さない！ 職場の労働者の代表として、JR東海労の代表として闘う！ ということだと思います。そして、私たちも萩原さんと共に闘う意思統一をするために、本日の決起集会に結集して頂きました。本当に大変な環境の中ありがとうございます。短時間に集中して進行していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

今日は8月5日です。10日後には敗戦後75年目の8月15日を迎えます。75年前のあの戦争で、多くの尊い命が犠牲になりました。同時に多くの方がこの国の本質を実感し、本当に大切なものは何かを実感したのではなかったと思います。そして最近では、あの原発事故そして今回のコロナ禍で、この国の本質、そして本当に大切なものは何かあらためて明らかになっているのではないかと考えています。

新型コロナウイルスの感染拡大状況は、4月に「緊急事態宣言」が出された時点よりも悪くなっています。感染者は増え続けています。尊い命を失った人、職を失った人、店をたたんだ人、収入を絶たれた人、これからどうやって生きていけばいいのか途方に暮れる人が発生しています。そして私たちは今も尚、感染の危機にさらされながら生活、仕事をしているわけです。それに豪雨災害が追い打ちをかけました。しかし安倍政権はそんなことお構いなしで、来年のオリンピック開催と「戦争ができる国づくり」に必死になっています。

何よりも悲劇的な事は、これだけの労働者・市民が犠牲になり、更なる犠牲と生命の危険を強要されているにもかかわらず、自称「労働者の味方」等と宣う政党や国内のほとんどの労働組合から反対・抗議の声すら上がらない。まさに「国内から労働組合をなくそう」としている権力者

の思い通りの状況になっているということです。この様な状況下で、私たちに今、何よりも問われていることは何か？ それは、過ちを繰り返さないことだと思います。そのために、日常生活や職場で発生する諸問題そして蔓延する嘘やゴマカシ、命令と服従、差別や嫌がらせの問題にいかん立ち向かうのかだと思います。そして共に行動する仲間を拡大するしかないと思います。

権力者や会社は、原発、コロナそして豪雨被害を「想定外だった」と言って「己の責任から」逃げています。その他方で「緊急事態だ」と言って、私たち労働者と市民に更なる責任と犠牲、「規律と忠誠心」を強要し、それに従わない者を悪者にしようとしています。そして今後は、それが合法的に行えるように憲法を改悪しようとしているわけです。だから私たちは絶対に騙されない、言いなりにならない、過ちを繰り返さない、後悔をしないために一丸となって闘わなければならないと思います。

安倍首相はこの国でどうしてもオリンピックを開催したかったわけです。そのために「もう原発事故は終息しました。安全です。」と嘘をついてオリンピックを誘致しました。そして原発事故とその犠牲者をお祭り騒ぎで忘れさせようとしてきました。更に新型コロナウイルスの感染が拡大しても検査をさせず、被害を最小限に見せながら、対策をズルズルと引き延ばしにして来たのです。そんな安倍政権は世界中から批判を浴びました。それでオリンピックの開催を断念して4月にやっと「緊急事態宣言」を発したわけです。しかし、宣言を出しても事態は改善されませんでした。何故なら、検査体制、医療体制が不足していたからです。

マスコミが維新の橋下や吉村を持ち上げていますが、そもそも「大阪オリンピックの誘致で金を使うから」と言って、大阪市で28カ所あった保健所を統廃合して1カ所にしてしまったのは橋本・維新です。その後も維新は、病院や公衆衛生研究所などをことごとく潰していったんです。そして最近では「緊急事態」となる基準値を勝手に都合よく変更し、挙句の果てに「イソジンの販売促進・宣伝部長」になっています。

豪雨災害も同様です。本来は国が予算と人員を付けて万難を排して取り組むべき仕事を、「ボランティアの善意」と「労働者と市民への更なる責任と犠牲の押し付け」で済まそうとしているわけです。まずはオリンピックや万博そしてリニア等の国家プロジェクトを見直し・中止すべきです。そして戦闘機やオスプレイなどの爆買いを止めて、浮いた予算を防災対策に回すべきだと私は思います。

GO TO トラベルキャンペーンで被災地、被災者、感染者は救えません。私たちは「全く使用価値のないマスク2枚」と「10万円の特別定額給付金」で安倍政権の言いなりにするわけにはいきません。「今は資本家・企業が生き残るための戦時下だ！」「労働者や市民の命など知ったことか！」「労働者や市民は、資本家・会社の利益拡大のために黙って言うことを聞いて犠牲になればいいんだ！」というのが権力者の本音です。だから言いなりにならない労働者を悪者にして差別して見せしめをしているわけです。だから私たちは、それを許さない闘いを今日まで展開してきましたし、私たちの闘いに対する共感・賛同・連帯の輪は確実に拡大しているのです。このことをしっかりと確認して、自信と確信を持って、関連会社とJR東海会社の労働者を代表した闘いを「オール関西」で強力に展開しなければならないと思います。

最後にもう一度、私たちは何のために闘うのかを明確にしたいと思います。それは、今までもこれからも、私たちの家族と仲間の将来・利益のためです。平和な社会を実現するために、共に闘う仲間を拡大するためです。そのために、騙されない！ 言いなりにならない！ 不法行為を許さない！ 差別・嫌がらせは許さない！ 職場から、関西の地から、東海の地から、そして国内から労働運動の火を消さないために闘うということです。

仲間みなさん！「オール関西」で断固とした闘いを展開しましょう！
以上を申し上げて、主催者を代表しての挨拶にさせていただきます。

3. 来賓あいさつ：畑野

本部の副委員長に就任しました。本来なら木下委員長があいさつを行うところですが、8月3日から滞上 JR 総連執行委員と一緒に職場に復帰。奮闘されている。

萩原さん、お疲れ様でした。これからが本番の闘い。司会者も触れていた殺人罪での刑事告訴でも良いと私も思う。誰かから、竹腰は小寺の子分と言われていると聞いた。忠実に聞いて実行する。労働者、東海労の組合員は掃いて捨てればいいなっている。東海労として断固闘う。その代表として萩原さんが立って頂いたと思っている。もし、様々な憶測で懸念を持つ人がおられたらシッカリ議論し、断固闘っていかねばならないと思います。

7月に名古屋運輸所でコロナウイルス感染者がでた。新大阪で泊まっている。この部屋に組合員も泊まっている。現場も闘う。組織も闘う。第三者機関をも活用して闘う。OB も一緒になって闘ってもらう。すべての労働者として連帯して闘う。

4. 団交報告：熊澤

サービックとは、コロナウイルス関係については6月4日一度団交をやっている。理不尽な自宅待機外しで6月18日に再度申し入れして、本日、再度の団交となった。

自宅待機の勤務認証について糺した。就業規則には載っていない事を確認した。にも関わらず「出来る」と居直り、言い張っている。

自宅待機を外すにあたって、山崎は「やるべき事をやらないから」と発言。今回はそのことは認めた。しかし謝罪はしない。自宅待機の理由に、課題を提出しないことが入っているのかどうかは、「入っている可能性がある」と誤魔化した。

本社も容認している。許さない。課題提出をしないことで自宅待機を外すことはコロナウイルスに感染して死ぬということだと抗議し団交を終了した。

分会としての反撃の闘いを7月8日分会集会。20日に執行委員会で議論を重ねて進めてきた。第三者機関活用ならプロジェクト立ち上げることも確認している。8月9日に執行委員会を開催して正式にプロジェクトを立ち上げる。弁護士に依頼しない、自分たちで組み立てる裁判闘争である。職場の運動と連携して闘って行く。

5. 原告決意表明：萩原

6月14日に腰が痛み出し、6月24日から7月29日まで病欠で休んでいた。一ヶ月遅れでの提訴になってしまった。

11月に65歳で退職となる。しかし決意した。プロジェクトを作ってもらえるそうなので、一緒に闘っていきたい。私の思いは、『**提訴にあたって**』を読んでほしい。

若干内容に触れるが、会社の対応の経過はジグザグしている。困ったのではないか。訴状を書くのに色々見直したらわかった。

自宅待機は4月20日に「会社の掲示」で明らかにされ、4月24日から始まった。「会社の掲示」は今日までに14回出ている。最初の2回だけは「就業規則第44条に基づく有給休暇」と書いてある。それ以降は書いてない。「課題の設定」は今日までずっとあるが、実は5月2日付の3回目の「掲示」だけには「課題の設定」の文言がなかった。地本が「有給休暇中に会社の仕事をしろ？ そんなのおかしいよ！」と抗議したのが4月23日。そして、27日には正式に「発」で

申し入れをした。そしたら、サービックは直ぐ東海労の指摘通りの間違いに気づき、「掲示」から「就業規則第 44 条の有給休暇」も「課題の提出」の文言も消した。

このように、東海労が指摘した通り、自分たちの勤務の取り扱いが間違っていることをサービックは認めた。だから、私や東海労組合員が「課題の提出」をしなくても一ヶ月の間は「自宅待機」を入れていた。ところが、分会情報で「サービックは勤務の取り扱いの誤りを認め、是正した！」と情報を出され、“**おそらく大本営から**”**「東海労の指摘を認めるとは何事か！」**と、**ネジを巻かれた**。したがって、間違った勤務の取り扱いだとわかっているにもかかわらず、強引に自宅待機外しを強行しだしたのだ。

5月20日に「自宅待機はずし」を開始した以降、会社はへっぴり腰でやっているだけで、困っていたと思う。実務は山崎副所長がやっており、彼だけがシャカリキになりやっており、JR本体の意志が働いているのが明らかだ。

サービック会社の幹部のほとんどはJRからの天下りで占めている。私の入社同期の秦野誠二がサービックの本社に来ている。SEKに出向に出ていたが5月で退職となった。ところが7月からサービックに来ている。現場は係長だらけ。あふれている。JR本体で60歳になるとサービックに出される。受け入れざるを得ない。サービックのたたき上げの係長は頭にきている。

山崎はミーさんと一緒にサービックに来た。山崎は、職場の実情等全く無視してこれまでの職場慣行を強引に変えてきた。だから、プロパーを中心とする管理者からも総スカンだ。副所長だった人が突然退職した。折り合いが悪かったと言われている。他にもいる。山崎は、竹腰、小寺をバックに持つ独裁者だ。だから、今回の裁判で、職場で働く社員の思いを酌み、山崎を被告のトップに持ってきて提訴した。

今回の「自宅待機外し」問題も、言うことを聞かない者への報復としての自宅待機外し。支配の論理だ。権力者はそういう歴史を自分で創る。人間の歴史は権力者の歴史です。そういうものを黙って許容するのか、ふざけるなよ！ とやるのか、という事が今、私たちに一番問われます。ここで、どうするか！ 私たち東海労の真価が問われると思います。

東海労は去年、乗務員の一方的な休日勤務指定反対で臨大まで開催したが、スト権確立まではならなかった。あのときに私も文章を書いて、東海労は権力者から見れば「JR東海に妖怪が出る」というような存在だと書きました。結局、今回も会社はそういうふうに東海労に感じたのではないか。そう感じ、危機感を募らせて行ったのが今回の対応だと思います。

そういう事で、JRで管理者だった奴らが自分たちのポストを確保し、65歳を過ぎてもしがみつき残っている。週三日だけ来ているが、普通は必要ない。時給が高い。1,300円。天下り王国になっている。その様なことも法廷の中でできれば暴露していきたい。

本日の提訴を本部も地本も情報化し、萩原個人の闘いではなく、東海労としての闘いと位置付けてくれた。弁護士に依頼しない本人訴訟だから大変だと思うが、断固戦う。

本日、訴状を裁判所に受理してもらった。山崎には事前に法廷に出てもらうことを言っている。裁判所はコロナ禍の影響で案件が詰まっていて、11月30日に私が退職するまでに期日が一回入るかどうかわからない。しかし、提訴したことが重要。我々の姿勢が会社にも、サービックで働く全ての労働者に伝わる。色んなところで宣伝していきたい。よろしくお願いします。

6. 集会アピール

7. 団結ガンバロー

以上